

地域に飛び出す市民国際プラザ！

『市民国際プラザ』では、国際協力や多文化共生に関する自治体、地域国際化協会、NGO/NPO等の相談に対応しています。更に、各地の**先進的な活動**を取材し、本ダイジェストでご紹介しています。

特定非営利活動法人沖縄NGOセンター (沖縄県宜野湾市)

◆沖縄から地域へ、世界へ。市民主体の国際協力、国際交流、多文化共生への挑戦。

沖縄NGOセンター (以下ONC) は中間支援組織の必要性から1999年、市民の働きかけで沖縄NGO活動推進協議会として設立されました。2008年にはNPO法人格取得を契機に現在の沖縄NGOセンターに名称変更し、県内の国際協力、国際交流、多文化共生の中核を担っています。今回は、事務局の佐々木綾菜さんにお話を伺いました。佐々木さんは多文化共生マネージャー (通称タブマネ) でもあります。

ONCの活動は多岐にわたります。自主事業としては開発教育や沖縄移民の歴史、多文化共生に関する講座やイベントの開催、



＜世界のウチナーネットワーク出前授業の様子＞

にほんごサークルの運営、ボランティアを希望する市民のコーディネート機能、そして、ONCの特徴的な事業の1つ「世界のウチナーネットワーク」では、沖縄から海外へ移民した人々やその子孫をはじめ、沖縄に住む人、沖縄を好きな人が、県内にとどまらず日本各地そして世界規模で交流を図っています。外務省のNGO相談員制度や、沖縄市の多言語相談等の受託事業も行っています。こうした事業を支えるのが4名の事務局スタッフと、1名のアシスタントスタッフ、ボランティアの方々です。

米軍基地の影響もあってか、外国人と聞くとアメリカ人の存在が真っ先に思い浮かぶ沖縄ですが、県内には120以上の国と地域から19,000人を超える外国人が暮らしています。米軍関係者を除くと、ベトナム人が最多ということで、ONCとしても、国籍の多様化に対応するため、県内において更なる多言語化「やさしい日本語」の普及も課題とのことです。コロナの影響で活動が停滞しかけた際も、「学びや活動を止めるな。」の精神をモットーに、イベントや講座をオンライン開催へと迅速に切り替えて対応しました。コロナ禍でも市民から「国際協力に関するボランティアをしたい」などの声が寄せられたそうです。また、県内の国際協力NGOの中には国内の多文化共生に取り組む動きも出ているそうです。

2022年5月15日に沖縄県は、本土復帰50周年を迎えます。ONCでは復帰に関する地元紙と全国紙の新聞記事を用いたワークショップを実施予定です。土地の主権をめぐる問題といえば、ロシア・ウクライナ情勢の影響から、ウクライナ避難民も4月に来沖しました。今後の彼らの受け入れに加え、人の移動そのものにも注視していきたいとのことです。

多様な文化が入り混じる地で、市民主体の国際協力・国際交流・多文化共生に果敢に取り組むONC。市民1人ひとりが世界の課題を自分ごととして捉え、よりよい社会をつくるための活動促進に向けて、ONCの挑戦は続きます。

特定非営利活動法人沖縄NGOセンターのウェブサイトはこちら <https://www.oki-ngo.org/>

地域に飛び出す市民国際プラザ！

『市民国際プラザ』では、国際協力や多文化共生に関する自治体、地域国際化協会、NGO/NPO等の相談に対応しています。更に、各地の**先進的な活動**取材し、本ダイジェストでご紹介しています。

宮崎市国際交流協会（宮崎県宮崎市）

◆楽しみながら「繋がる」異文化交流、「孤立させない」取り組みとは

宮崎市国際交流協会(MCIA)は、宮崎市の国際交流活動を促進し、国際親善と宮崎市の活性化に寄与することを目的として1993年に設立されました。今回は、事務局長の新里淳一さんにお話を伺いました。

MCIAは行政、市民、外国人コミュニティ、JICAなどと連携を図りながら多様な活動を展開しています。活動に参加するきっかけは口コミの力が大きいそうで、MCIAが地域に浸透していることが分かります。市在住外国人を対象とした安全講習会や日本の文化体験、そして留学生と自治会の人々が共に参加する清掃活動は、地域と外国人を繋ぎ交流を促す機会に加えて環境問題、SDGsを考える場にもなっています。



＜コソダテカフェの様子
(共催：宮崎大学、JICA九州)>

一番人気は料理を通じた異文化交流で、MCIAのウェブサイトには各国料理のレシピが掲載されています。姉妹都市である韓国・報恩郡と宮崎市の中学生との交流は毎年行われ、コロナ禍においてもオンラインを活用して継続されています。数多くある活動の中でも、最も注目したいのが「コソダテ・カフェ」です。市内に住む子育て中の外国人住民や外国にルーツのある方が気軽に集まれる場所としてスタートし、彼らの孤立を防ぐと共に外国人と日本人の交流の場になっています。大切にしているのは「母語で話すこと」だそうです。人口約40万人の宮崎市には大学や日本語学校に通う留学生の他に、技能実習生も多く雇用されています。

県内には約2600人のベトナム人が暮らしており、2021年には宮崎県日本・ベトナム友好協会と宮崎県ベトナム人協会の共催で「宮崎県ベトナム人交流会 サッカー大会」が開催されました。県内のベトナム人約160名が集まりました。スポーツを通じた交流で、外国人同士のコミュニティも結束されていきます。

今後の展望として、外国人が集まり市民との交流できる場を提供し、技能実習生、企業の方を繋げる役割ができればと新里さんはお話されていました。新里さんを含めMCIAの職員はわずか4人ですが、少数精鋭のメンバーが様々なセクター、アクターと連携しながら工夫を凝らし、一味も二味も違うイベントや事業を企画されている様子が印象的でした。外国人と日本人、外国人同士の密な関係性づくりを促進する宮崎市国際交流協会の活動にこれからも注目をしていきたいと思います。

宮崎市国際交流協会のウェブサイトはこちら <https://www.miyazaki-mcia.jp/>

～市民国際プラザが6階へ移動しました～

2022年1月に1Fから6Fへフロアを移動しました。パンフレット等の配架・閲覧スペースはございませんが、来館による相談は変わらず受付けております。ご予約の際はメール・お電話でお願いします。

所在地：〒102-0083 東京都千代田区麹町1-7 相互半蔵門ビル6階